女子美術大学大学院 博士前期課程

平成31年度 (2019)

インタラクティブ空間演習

初回オリエンテーション

2019/4/17

school

語源

skhole [ギリシャ] =「意義ある余暇」

- “ school ” (学校) の語源
  - ギリシャ語　スコレー　(skhole)　閑暇 かんか
  - 閑暇（スコレー skhole）←→　仕事（アスコリア askholia/ 閑暇の不在)

「閑暇とはたんに暇な時間ではない、また、仕事の疲れを癒す休息でもない。閑暇は、人間が学問や芸術に専念し、幸福を実現するための、自由で満ち足りた時間である」

加藤守通「第2講　哲学と教育」、『教育思想史』今井康雄(編) 東京：有斐閣アルマ、2009年、46頁。

ぜひ大学院の時間や場でしかできないこと、
修了後にはできないことにこそ取り組んでいただきたい

自己紹介

- 石井　拓洋（いしい　たくよう）　Ph.D.
  takuyo.ishii@gmail.com

- 研究領域

  – 「なぜ藝術（例えば作曲）は一般に比較的価値の高い営みとして受容されてきたのか？」(釈然としないから)

  – 音楽文化学研究 (とくに 20世紀アメリカの音楽と文化）
  – 作曲家アーロン・コープランド研究
  – 映像と音楽
  – 藝術理論全般　（音楽に限らない多様な藝術ジャンルの実践経験に基づいて）

- 学部 = 作曲、コンピュータ音楽
- 修士 = 映画音楽研究 (古典的ハリウッド映画、エイゼンシュタイン など)
- 博士 = アーロン・コープランドの映画音楽 と 20世紀アメリカ文化の考察

メニュー

- オリエンテーション orientation（方向づけ）

本日の話

・この授業のねらい　〈研究的視点〉と〈研究作法〉
・授業の具体的説明
・来週の連絡

藝術文化研究のための「視点」の設定の重要性

● 藝術文化研究の過程

1. 研究上の〈問い〉の明確化

2. 〈問い〉に関連するデータ収集

3. 〈研究的視点〉からデータを分析する。
   分析方法（研究方法）は〈研究的視点〉から導かれる。

4. 研究作法にしたがって結果をまとめる。

5. 〈問い〉の内容の再考（1へもどる）。

藝術文化研究のための「視点」の設定の重要性

● 今日の人文社会科学研究の主要な論点を知る

（下の論点はすべて相互に関わりあっている）

→ 西欧近代を相対的にみる （西洋中心、主体、実体、二元論、還元、進歩、藝術 を疑う ）

→ 知の権力性 に批判的な視点 （「国家のイデオロギー装置」、正史 cannon を疑う ）

→ 周縁 へ の着目 （中心と周縁 、権力によってとりこぼされてきた価値を探る）

→ 言語に対する新しい認識 （言語論的展開 ）

（例えば）これらは 現代アート（ ⇆「近代藝術」） を根本からささえる論点とも重なる

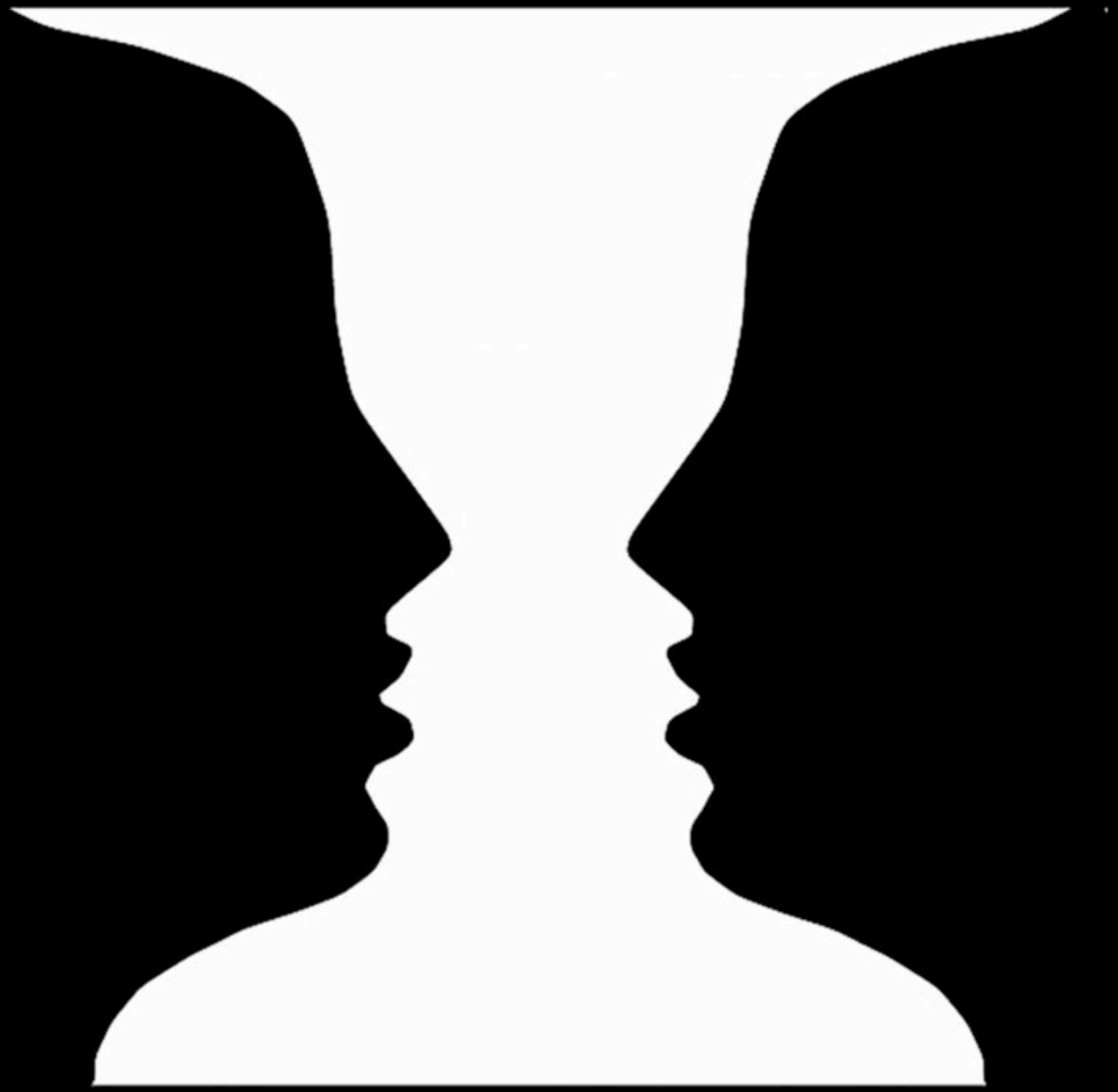
藝術文化研究のための「視点」の設定

総じて

「 20世紀の知の最大の変革は、
物事を『実体』ではなく、『関係』として認識しようとすることです」

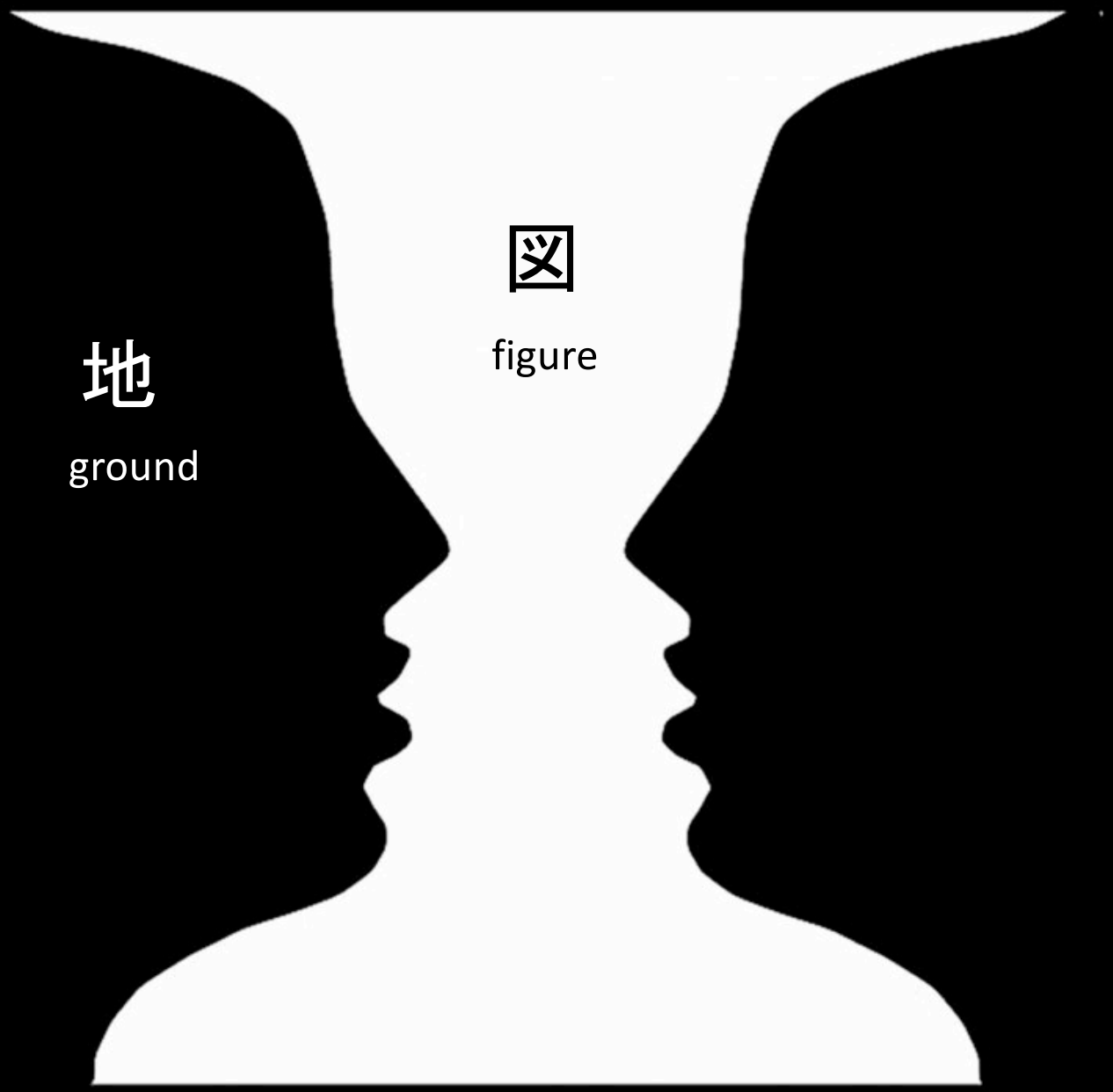
(小林康夫、船曳建夫編 『知の技法』1994年、102頁。)

実体論　から　関係論　へ



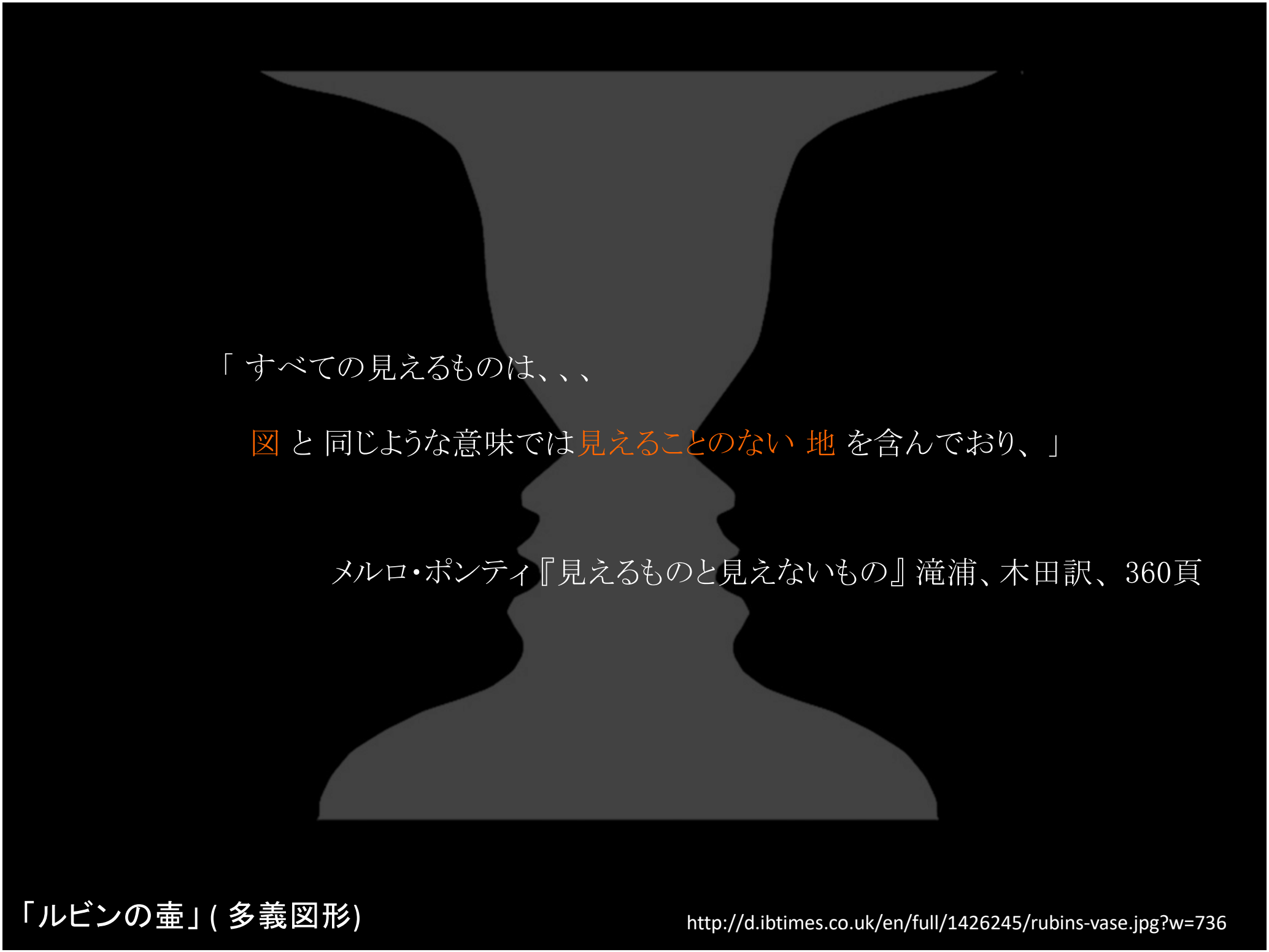
「ルビンの壷」(多義図形)

http://d.ibtimes.co.uk/en/full/1426245/rubins-vase.jpg?w=736



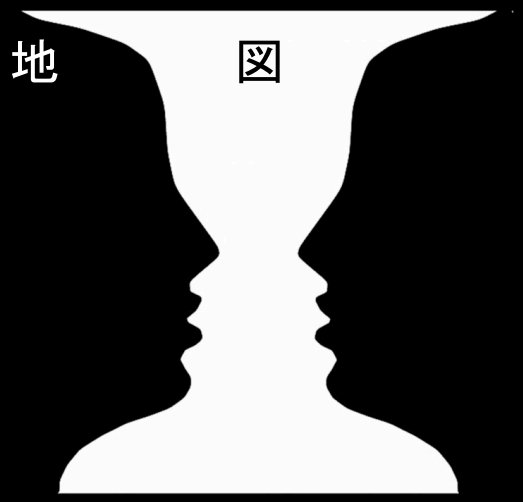
「ルビンの壷」(多義図形)

http://d.ibtimes.co.uk/en/full/1426245/rubins-vase.jpg?w=736



「ルビンの壷」(多義図形)

http://d.ibtimes.co.uk/en/full/1426245/rubins-vase.jpg?w=736



- ものごとは、一方に「図」があれば、かならずもう一方に「地」がある。
- 「図」と「地」が共存することによって、はじめて全体が成立する。相互依存的である。
- 「図」または「地」のうち、一旦いづれかに着目すると、もう一方が見え難くなりがちだ。
- 「図」と「地」には優劣はない。存在としての水準は同程度である。

Ex.) 強者と弱者、 中心と周縁、 役にたつものと役にたたないもの、新しいものと古いもの、 順境と逆境、 男と女、陽と陰、、、

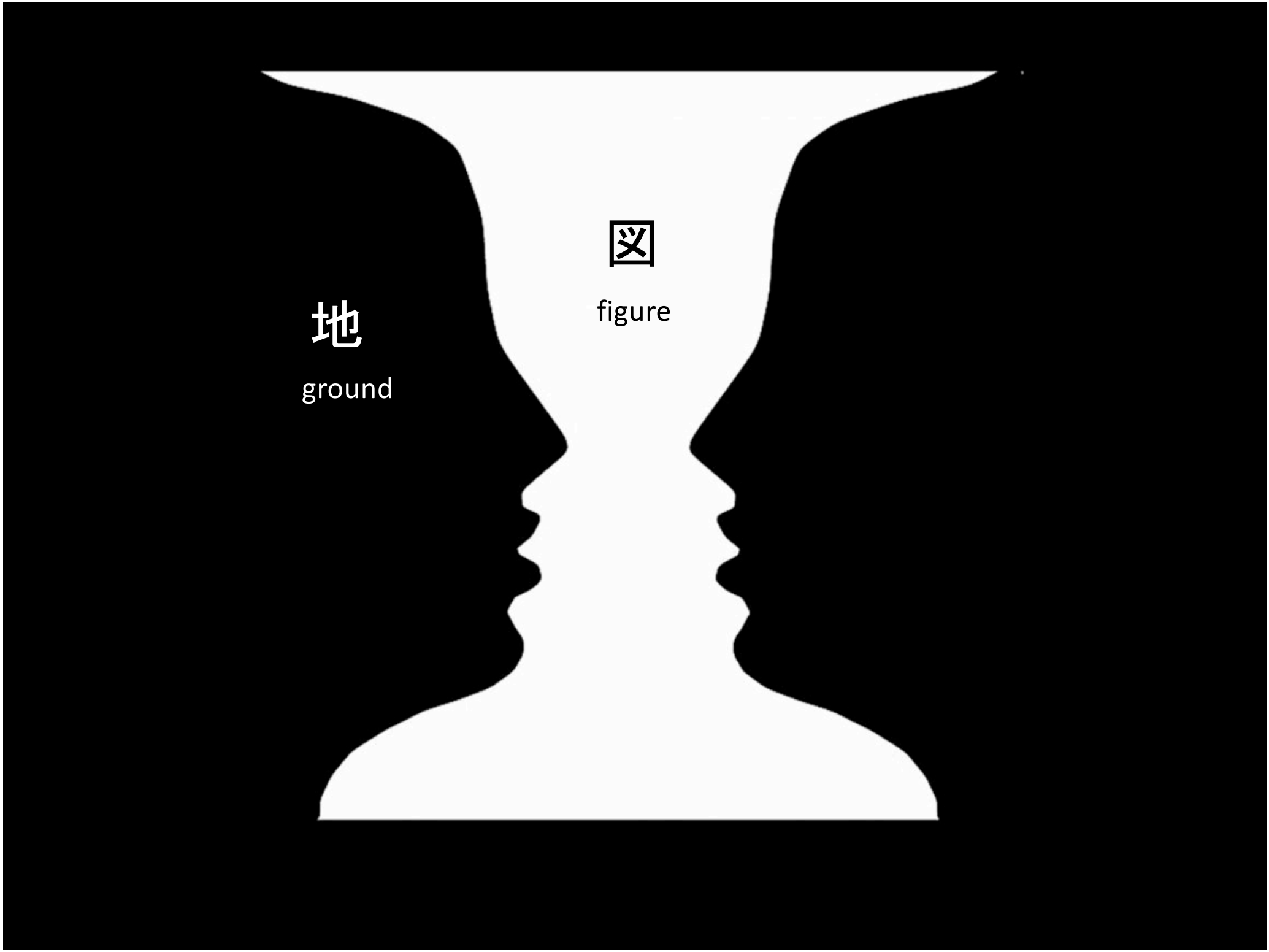


図
figure
地
ground

図

figure

地がなければ、そもそも図もまたあり得ない。

実体論から関係論への変遷を
みちびいた　20世紀の言語観

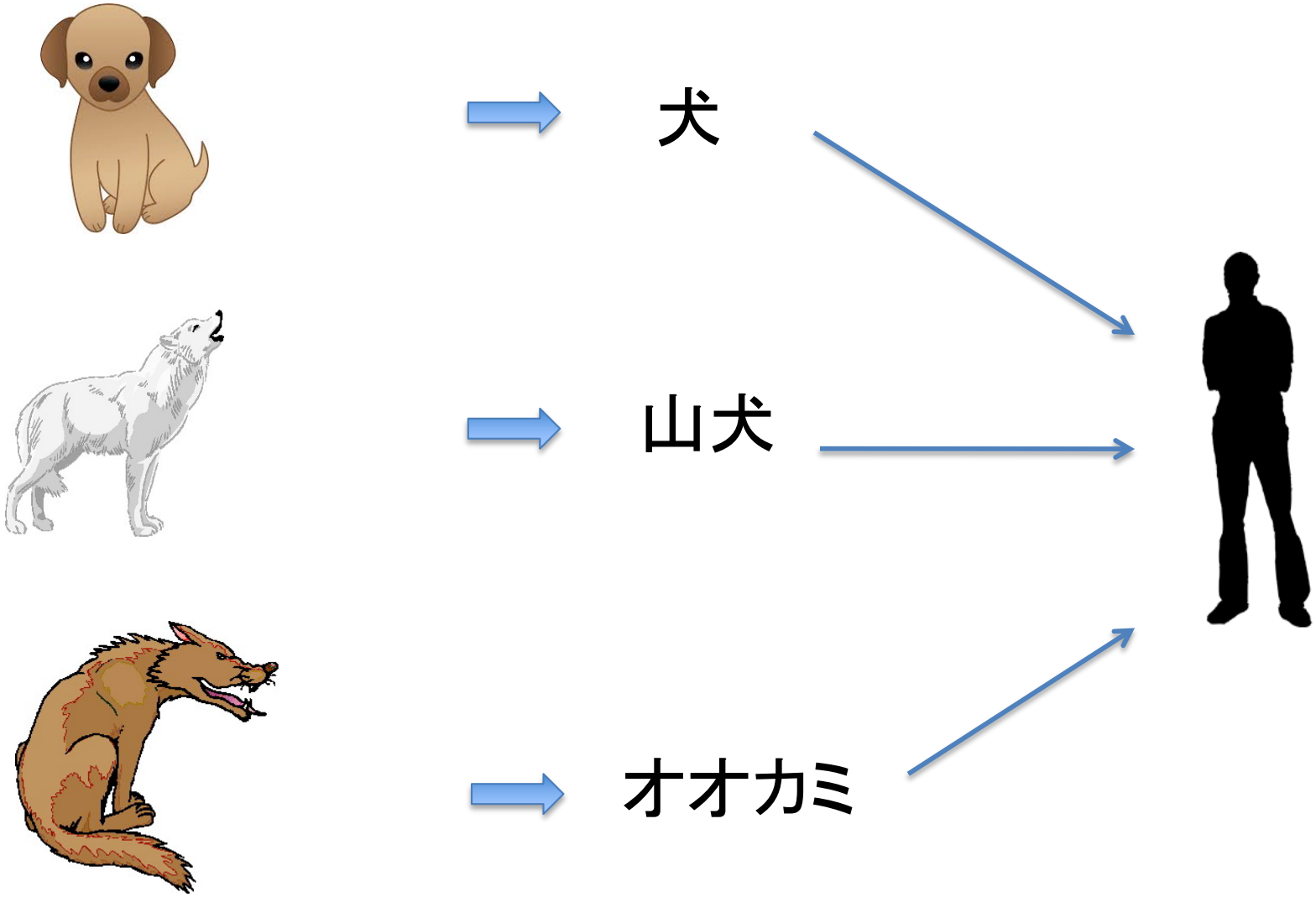
「言語に対する新しい認識」
符号　から　記号　へ

「言語名称目録観」

ソシュール以前の外界認識モデル

最初に物などが存在する。
人は物にラベルをつける。

(実体)　　(記号=言語)　　(外界認識)



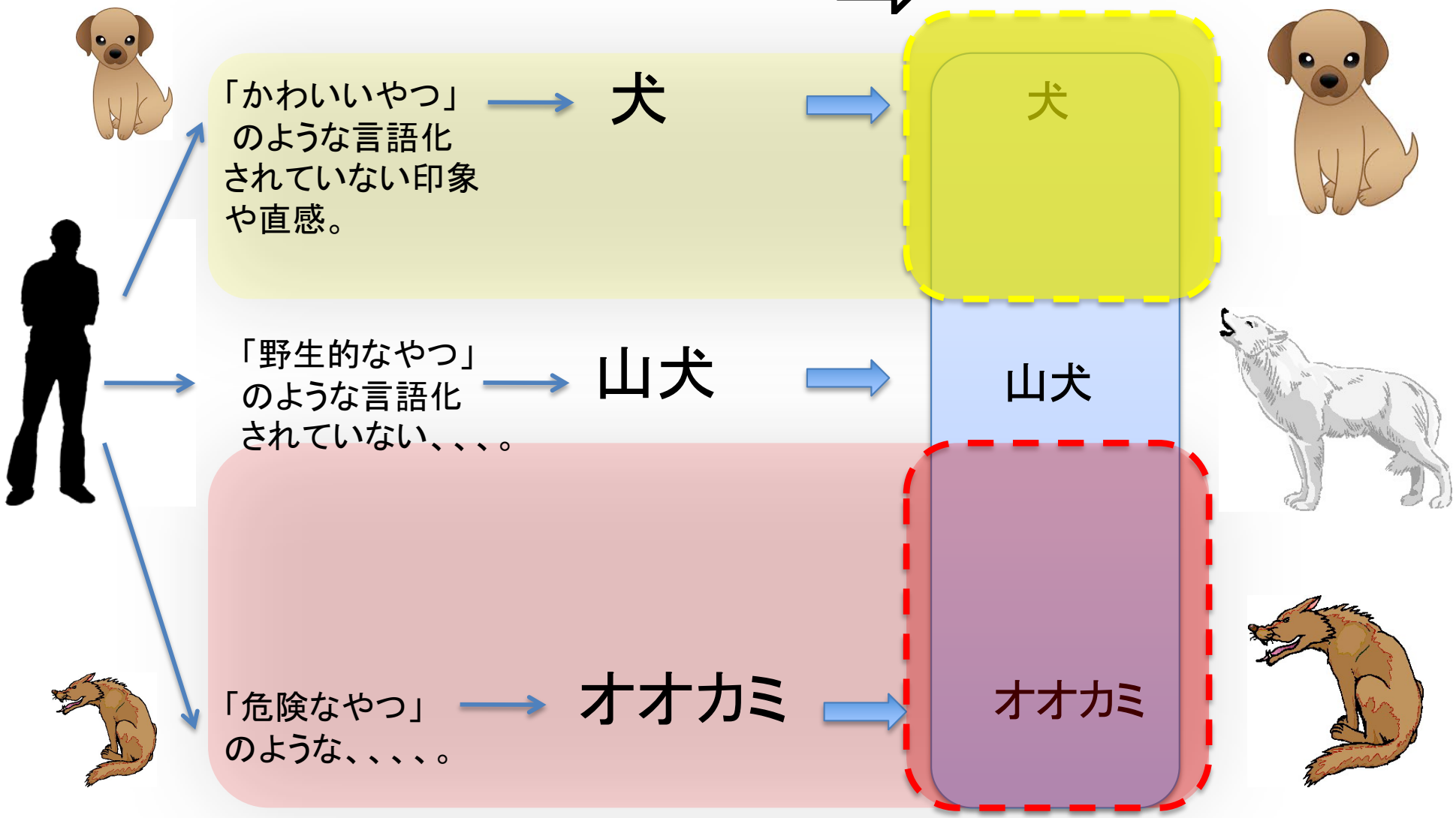
2019-04-17 改訂版

「言語論的転回」

ソシュール以後の外界認識モデル，記号論の視点

人は本来〈区分のない〉外界を
記号を用いて〈区分する〉。
そして外界を認識する。

言語によって外界が
区分される＝「分節」そし
て、それが「存在する」。



2019-04-17 改訂版

音の差異

概念の差異

記号表現

「いす」×

「いと」×

「きぬ」×

「いぬ」

「いに」×

「しぬ」×

これではなく

↓

これ

記号内容

↑

これでもなく

言葉においては「音」も「概念」も 他との関係による「差異」 によってしか示すことができない

「言語とは差異の体系である」→ 言語もまた実体はなく、すべて関係によって成り立っている

2019-04-17 改訂版

藝術文化研究のための「視点」の設定

- 藝術文化研究での 基本的視座

「 20世紀の知の最大の変革は、
物事を『実体』ではなく、『関係』として認識しようとすることです」

(小林康夫、船曳建夫編 『知の技法』1994年、102頁。)

実体論　から　関係論　へ

具体的な授業説明 、ほか

・シラバス参照
・講義資料webページ
・来週の連絡、連絡先確認 など